

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自己実現を果たすとともに、地域に根差し、地域に愛される学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、志をもち、夢や希望を追求し真に生きる力を持った生徒を育てるため、工夫を凝らした教育活動を展開する。
2. 地域の社会資源と連携を図り、生徒の活動の場を広げ、幅広く社会で活躍できる人材の育成をめざす。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成
(1) 生徒の進路実現を図るための学力向上の取り組みを進める。
ア. 学力向上プロジェクト委員会を中心に学力向上に関する具体案の作成・試行を行う。
イ. 朝のスキルアップトレーニングの活用を行う。
※進路満足度のアンケート結果(H26年度81%)をH29年度には90%に引き上げる。
(2) 「わかる授業」をめざし、授業改善に取り組む。
ウ. 授業アンケートを活用して、「わかる授業」づくりに取り組む。
エ. 授業公開、研究授業を積極的に進め、授業改善に役立てる。
※授業アンケートの「授業がわかりやすい(授業展開)」の項目(H26①3.11②3.09)、「授業の工夫(教材活用)」の項目(H26①3.10②3.07)をH29年度には、3.3以上に引き上げる。
(3) 生徒の進路実現やモチベーションアップをめざし、各種の資格取得を進める。
オ. 各種検定の受検・取得のための取り組みを進める。
※各種検定の受検者数(H26年度109名)を毎年5%ずつ引き上げ、H29年度には15%増とする。

2. 自己実現に向けたキャリア教育・生徒指導の確立
(1) 普通科総合選択制の特徴を生かし、入学から3年間を見通した進路指導を進める。
ア. エリア・自由選択科目の選択から、進路選択、進路実現につながる進路指導を系統的に進める。
(2) 多様な進路希望の実現に対応するため、個別指導を充実させる。
イ. 進路資料閲覧室の充実を図るとともに、個別のガイダンス・カウンセリング機能を充実させる。
※進学における第一志望校の合格率を測定し、H29年度までに70%以上を達成する。
※進路未決定率(H26年度4.2%)をH29年度3%まで減少させる。
(3) 生徒の学校への帰属意識を高めるとともに、生徒の社会性育成のため規範意識を醸成する。
ウ. 遅刻指導を工夫することで、年間遅刻者数の減少に取り組む。
※年間遅刻総数(H26年度3620)を、H29年度には3200まで減少させる。
(4) 生徒の自主・自律の力を育てるため、自主的活動を充実させる。
エ. 特別活動、生徒会活動に工夫を凝らし、活性化に取り組む。
※学校教育自己診断 HR活動活発度肯定感(H26年度42%)をH29年度には60%に引き上げる。
オ. 生徒の自主活動を支援し、部活動の活性化に取り組む。
※部活動加入率(H26年度38.8%)をH29年度には50%以上とする。
カ. 生徒会活動、部活動等で、地域と連携した活動を行う。
※連携活動回数(H26年度5回)をH29年度には10回以上に増やす。

3. 健康管理と安心安全な学校づくりに向けたサポート体制の確立
(1) こころと身体の健康に対する知識を深める。
ア. さまざまな健康に関する講演会を通じて、健康な生活を送るための知識を深める。
※H29年度までに、すべての講演会後のアンケートで、理解度90%以上を達成する。
(2) いじめを許さず、違いを認め、人を大切にすることを養う。
イ. 人権推進委員会を中心に人権教育を進め、人権意識の向上に取り組む。
※学校教育自己診断 人権教育充実度(H26年度46%)をH29年度には60%に引き上げる。
(3) 誰でもいつでも利用できる教育相談体制を確立する。
ウ. 教育相談委員会を中心に相談機能の充実を図る。
※学校教育自己診断 教育相談関連肯定感(H26年度35%)をH29年度には55%に引き上げる。
(4) 性に関する正しい知識を獲得させるとともに、異性との関係のあり方についての意識を向上させる。
エ. 性やDVに関する講演会の実施・保健部ニュースによる広報活動等によって性教育の充実に取り組む。
※講演会後の確認アンケート各項目の理解度(H26年度は5項目中3項目が60%超)をH29年度には全項目70%以上をめざす。
(5) 家庭と学校の連携を強化し、生徒の学校生活の充実に資する。
オ. 学校・家庭間の連絡を密にし、情報共有を図る。
※学校教育自己診断 家庭連絡充実肯定感(H26年度60%)をH29年度には75%に引き上げる。

4. 学区撤廃・再編整備計画等の新たな教育状況に向けた体制づくり
(1) 中高連携・広報活動の充実を図る。
ア. 中高連携のあり方を見直し、新たな取り組みを導入する。
イ. 入試制度変更の影響を検討し、広報活動の充実と新たな取り組みを行う。
※学校説明会の参加者数(H26年度275人)をH29年度には400人以上に引き上げる。
(2) 新教育課程・普通科総合選択の改編を見据えた教育課程等の検討を行う。
ウ. H26年度に検討した再編整備プロジェクトチームの案を踏まえつつ、新しい教育課程を検討する。
※改編発表があった場合には、速やかに改編後の教育課程を示すことができるように体制を整える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
生徒対象の学校教育自己診断 [平成27年7月実施] 【生徒指導がしっかりしている】の肯定的回答が81%となっている。これは、生徒指導の教員を中心として全教員が一丸となって指導を徹底させた結果だと考えられる。 【学校へ行くのが楽しい】に対する肯定的回答は70%となり、H23年の58%から12%増加した。また、否定的回答も昨年度より7%減り、24%となった。生徒指導の質の向上によって、生徒にとって居心地の良い学校に	第1回学校協議会(7月3日) ・「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」を定着させ、きっちりした生徒指導を基盤にして「やれることからきっちり足元を固めていく」方針で取り組んでいる。 ・学力向上につなげる方策の一つとして「検定部」を立ち上げた。英語検定受験にむけて部活動の形をとって、一緒に勉強して一緒に切磋琢磨するもので、勉強することに対するモチベーションアップを図っている。 ・女子の短い丈のスカートを禁止し、1年生はスカートの裾部分に刺繍を入れることでス

府立かわち野高等学校

なってきたと考えられる。今後さらにコミュニケーションの向上をめざしていきたい。

【エリアや選択科目等、興味に応じて学べる】と【充実した進路指導】の肯定的回答はそれぞれ71%と、64%となっており、エリアや選択科目また進路指導等はかわち野高校のアピールポイントの一つなので、広報活動などを通して中学生に伝えていきたい。

【いじめやめごとなど、先生は色々な問題を見逃さずに対応してくれる】は、肯定的回答が34%で、否定的回答(25%)を上回ってはいるものの、肯定率は期待に反して高くない。この数値はここ数年ほとんど変わらない。現実には本校ではこの数年間「いじめ事案」は全く生起していないので、この結果の数値とは感覚的にギャップがあるが、「わからない」の回答が41%もあることを考慮すると、「実際にいじめの場面に遭遇していないので判断できない」と考えた生徒が多かった結果と思われる。

【悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる】の肯定的回答は昨年より17%上昇し52%となった。否定的回答も28%から18%へ10%減少している。校長のリーダーシップのもと、担任や学年、また顧問の教員全員が、生徒の様子を細かく観察し、積極的に声掛けを行うように一丸となって指導に取り組んだことや相談室を積極的に活用できるように取り組んだ結果が、ようやく出てきたと思われる。

前問同様この設問でも「わからない」の回答が31%あり、悩みのある状況におかれている生徒が少ないことの表れと考えられるが、今後その点を再度検証する必要がある。

本校は「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」「落ち着いて安心して授業を受けられる学校」が根幹にある。落ち着きを基盤にして更に何ができるのかをプロジェクトで模索し、学校全体で推進していくことが望まれる。特色に関しては、折に触れ内にも外にも本校の特色をアピールする広報活動が必要であるし、新しいアピールポイントも作り出すべきだとと思われる。

保護者対象の学校教育自己診断 [平成28年1月実施]

【子どもは、学校へ行くのが楽しいようだ】は例年肯定感が強く、生徒のアンケート結果の傾向とも一致している。このまま維持しなければならない。

【学校の授業がわかりやすいようだ】は肯定感52%に対して否定感36%である。科目によって難易度は違うし、わかりやすさにも差が出る。やや肯定感が強いのだが、今後学力向上と相まって、授業改善に力を注ぐ必要がある。

【進路についての情報をよく知らせてくれる】、【保護者が授業などを参観する機会をよく設けている】、【エリアの仕組みや選択科目の選び方はよくわかる】については、肯定感が減少している。生徒のガイダンスに関する情報がなかなか保護者に伝わらないことから不安感を抱くようになってきている。エリアの仕組みや選択科目は生徒へのガイダンスが主で保護者にはなかなか伝わらない部分があるが、進路情報の提供や授業参観の機会設定については次年度に向けて何か新しい仕組みを考えなければならない。

カート丈を短くできないようにした。ただ、強行に指導するのではなく、性被害に遭っているのが短いスカートの女子が圧倒的に多いこと、自分の身を守るために制服をきちんと着用しようということを保護者も交えて訴えていったので、予想に反して、反発がほとんどなく指導が順調に進んだ。

- ・遅刻総数は昨年3500まで減った。今年は3000を切るつもりで取り組んでいる。遅刻総数は減少してきているのだが、年間欠席日数は4000を超えている。今後、欠席日数を減少させる手立てを考える必要がある。
- ・評価指標について目標値を設定して取り組んでいくのだが、統計的には、ある水準まで数字を伸ばすと停滞傾向になる。成果が上がるごとに要求水準も高くなるので、同じように取り組んでも数字は下がる場合がある。水準に合わせてアンケートの質問項目を変えるなどの方策が必要になってくる。

第2回学校協議会(11月27日)

- ・再編整備事業で、H29年度より普通科総合選択制からコース制に移行することが決定した。現在専門コースの設定や新しいカリキュラム作成に向けて検討中である。普通科総合選択制で培ってきたノウハウを専門コースに活かす方向で改編を行いたい。また、きめ細かな生徒指導を基盤に据えるという学校の基本コンセプトは変わることはない。
- ・学校教育自己診断の結果を分析すると、「学校が楽しい」の肯定的回答が非常に多く、年々伸びてきている。また「生徒指導がしっかりしている」の肯定的回答が圧倒的に多い。生徒は多少の不満はあっても、学校を居心地がいいと思い、生徒指導に期待を持っている側面がうかがえる。さらに、対話を大事にしていることが「耳を傾けてくれる」「相談に乗ってくれる」の肯定的回答アップに繋がっているため、学校のコンセプトである「厳しさの中にも温かさを持った生徒指導」が成果として表れていると思われる。

第3回学校協議会(2月23日)

学校教育自己診断(保護者)の結果を受けて

- ・授業参観の参加者がきわめて少ない。原因として、授業参観の情報が伝わりにくいことと、時期の問題がある。情報発信の仕方を工夫してみてもどうか。また、参観の期間を広く設定してその期間ではいつでも自由に授業を見ることができるよう「フリー参観」の形態を検討してみてもどうか。
- ・否定感が急増した項目がある。1年でこれだけの変化があるのは、何か外的要因が働いた結果なのではないか。たとえば、2年後にコース制に移行することが発表されたが、それによって普通科総合選択制に在籍していることに対して不安を感じた結果の顕れなのではなかろうか。
- ・進路が多様化している中で個々のニーズに応えることは難しいが、家庭での会話を促すような資料を提供するなどの方策を模索してみることで、不安感や否定感が薄まるのかもしれない。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 確かな学力の育成	<p>(1) 学力向上の取り組み ア. 学力向上プロジェクト委員会の活動促進</p> <p>(2) 「わかる授業」をめざした授業改善 ア. 授業公開、授業研究の推進</p> <p>(3) 各種の資格取得推進 ア. 各種検定の受検・取得の推進</p>	<p>(1) 学力向上プロジェクト委員会において、効果的な実施形態の具体案を試行し、それによって進路の実現を促進する。</p> <p>(2) ・若手教員の授業研究会を中心に授業公開を行い、教員全体の授業改善につながるようの方策を検討・実行する。 ・公開授業の後には必ず研究協議を行い、互いの授業改善に役立てる。研究内容等を職員会議で報告するなど周知に努める。 ・授業アンケートに基づいて個々の課題を記入した用紙を作成し、課題を明確化する。</p>	<p>(1) ・学力向上プロジェクト委員会を5回以上開催し、具体案の作成・試行を行う。 ・スキルアップトレーニングの改革案の作成・試行。 ・進路満足度のアンケート結果(H26は81%)、83%以上。</p> <p>(2) ・研究授業および研究協議を3回以上実施(H26年度3回)。 ・研究内容周知方策の検討・実行。 ・授業アンケート「授業がわかりやすい(授業展開)」の項目(H26①3.11②3.09)、「授業の工夫(教材活用)」の項目(H26①3.10②3.07)をいずれも3.15以上に引き上げる。</p>	<p>(1) ・学力向上の具体策の試行、学校改革の核となる人材の育成の2点を主たるコンセプトとして取り組みを進めた。予定を上回り1月末現在で委員会をすでに6回開催した。また、その中で「検定を促進し、クラブ化することで、放課後学習に取り組む生徒を創出する」等の具体策が出され、試行を進めている中で成果を得ている。(◎) ・スキルアップトレーニングの改革案としては、遅刻指導との連動案が出され試行の途上にある。成果を検証しながらも、次年度はまず検定促進の取組みに重点を置き、次の課題としたい。(△) ・進路満足度のアンケートは76%にとどまった。ガイダンス等の体制について今後検討し次年度の取組みに反映したい。(△)</p> <p>(2) ・わかりやすい授業をめざして3回の研究授業・研究協議を行った。(○) ・研究協議の内容については職員会議で報告をした。今後は報告にとどまらず、協議内容の意見交換の時間を取るなど、協議に参加できなかった教員も成果を共有できるような工夫を行っていきたい。(○) ・授業アンケートの「授業が分かりやすい」の項目は1回目3.28・2回目3.27。「授業の工夫」の項目は1回目3.24・2回目3.25であり、前年度を上回った。アンケート結果の返却後に各教員それぞれの課題を提出してもらおうなどの取組みが、一定の成果を上げたものと考えられる。次年度はこれをさらに徹底する方向で取組みたい。(◎)</p>
		<p>(3) 学力向上プロジェクト委員会を中心に、検定受検者の増加のための方策を検討し、実行する。</p>	<p>(3) ・各種検定の受検者数(H26年度109名)を5%以上増やす(115名以上)。 ・検定受検促進のための方策の検討・実行。</p>	<p>(3) ・英検の受検者数は昨年度の20名から45名に増加した。全体の受検者数も9%増の119名となった。(○) ・検定受検の促進策として、学力向上プロジェクトを中心に、検定部の創立・検定情報のこまめな発信・広報活動などを行ったことが、受検者増につながった。今年度の取組み内容をグレードアップしたい。(○)</p>

府立かわち野高等学校

<p>2. 自己実現に向けたキャリア教育・生徒指導の確立</p>	<p>(1) 進路指導の推進 ア. 進路選択、進路実現につながる進路指導の系統的な推進 イ. ガイダンス・カウンセリング機能の充実</p> <p>(2) 規範意識の醸成 ア. 遅刻指導の強化</p> <p>(3) 自主的活動の充実 ア. 地域連携活動の推進</p>	<p>(1) ・実力テストを2回設定する。分析システム活用の研修会を持ち、データの有効活用を促進する。 ・進学補習等を充実させ、第一志望校に合格する力を身に着けさせる。 ・分野別の進路説明会を各学年で実施することによってガイダンス機能の充実を図る。 ・進路閲覧室に教員が常駐することによってカウンセリング機能の充実を図る。</p> <p>(2) 前年度遅刻数減少の目標が達成できなかった原因を分析し、「居残り指導」・「朝のスキルアップトレーニングと連動させた指導」などの新しい工夫も加えながら遅刻数の減少に取り組む。</p> <p>(3) エリア・部活動等における地域との交流活動を活性化する。</p>	<p>(1) ・実力テスト2回の実施と分析システム活用研修の開催。 ・第一志望合格率 60%以上 ・進路未決定率 3.0%以下 (H26 年度は 4.2%)</p> <p>(2) ・年 5 回の遅刻指導週間の設定。 ・年間遅刻総数 3500 件以下。(H26 年度 3620 件)</p> <p>(3) 地域連携の活動回数 5 回以上 (H26 年度は 5 回)</p>	<p>(1) ・5月に外部から講師を招き、テストの分析講習を行った。職員会議でのデータ分析報告により、情報共有を行うなど分析システムの有効活用に向けて実行を開始した。成果検証は次年度の結果を待たなければならないが、今後さまざまな活用実践を行いたい。(○) ・第一志望合格率は 72.8%であった。次年度はガイダンス機能の充実を図ることで、合格率を上げたい。(○) ・進路未定率は 2.7%であった。上記と同じくガイダンス機能を充実させることで、次年度は更なる減少をめざしたい。(○)</p> <p>(2) ・指導を途切れさせる「遅刻指導週間」よりも、毎日の遅刻指導を強化する方が効果的であるとの反省により、毎日の放課後指導に切り替えた。その結果、遅刻が減少した。(○) ・H27 年度遅刻総数 2798 件 (前年度比 22.7% 減) であった。目標値を大幅に超えて成果をあげた。次年度も本年度の取組みを強化する方向で取り組みたい(◎)</p> <p>(3) バスケットボール部・女子バレーボール部・テニス部の 3 つのクラブで中学校との交流事業を 5 回行った。また、地域ボランティアとして、これまで野球部が地域清掃活動を実施していたが、今年度は他の運動部も参加した。新たに地域の文化フェスティバルにダンス部が参加した。(○)</p>
----------------------------------	--	---	---	---

府立かわち野高等学校

<p>3. 健康管理と安心安全な学校づくりに向けたサポート体制の確立</p>	<p>(1) ところとからだの健康に対する知識を深める ア. 講演会と保健委員会活動の充実</p> <p>(2) いじめを許さず、違いを認め、人を大切にす心の醸成 ア. 人権教育の推進</p> <p>(3) 教育相談体制の充実 ア. 相談機能の充実</p> <p>(4) 性教育の充実 ア. 性やDVに関する講演会の実施</p> <p>(5) 家庭と学校の連携の強化 ア. 学校・家庭間の連絡の徹底</p>	<p>(1) ・事前指導などを計画的に行い、より興味・関心の持てる講演会をめざす。 ・生徒の保健委員会を充実させることで、生徒の関心を引き付ける。</p> <p>(2) ・人権教育推進委員会において、これまでの人権教育の取り組みを検討し発展させる。 ・各取組みごとに「振り返りシート」を書かせ、人権教育推進委員会において取り組みの理解度等を分析するとともに、生徒の意識への定着を図る。 ・「人権だより」等の広報を工夫し、より深く生徒に周知徹底するように取り組む。</p> <p>(3) ・スクールカウンセリングの周知を図るための広報活動を充実させる。 ・ケース会議や教育相談に関する講義を多く持ち、教職員の理解を深める。</p> <p>(4) 性教育の講演内容に工夫を凝らし生徒の興味関心を喚起することによって、理解度を向上させる。</p> <p>(5) 「学年だより」等の郵送、保護者向けメールサービス等を定期的に行うことによって、保護者への情報伝達をしっかりと行い、学校への信頼感の向上を図る。</p>	<p>(1) ・各講演会後のアンケートで理解度 90%以上を維持 ・保健委員会の活動内容の充実</p> <p>(2) ・各取り組みの後に振り返りを行い、全取組みにおける理解度 70%以上。 ・学校教育自己診断 人権教育関連肯定感 (H26 年度 46%) を 50%以上に引き上げる。</p> <p>(3) 学校教育自己診断 教育相談関連肯定感 (H26 年度 35%) を 45%に引き上げる。</p> <p>(4) 講演会後の確認アンケート 5 項目中 4 項目以上で理解度 60%以上 (H26 年度は 5 項目中 3 項目)</p> <p>(5) 学校教育自己診断 家庭連絡充実肯定感 (H26 年度 60%) を 65%に引き上げる。</p>	<p>(1) ・保健関係各講演会の理解度は、喫煙防止講演 99%・薬物乱用防止講習会 99%、であった。(○) (昨年度実施した歯科衛生講習会は講師の確保ができず実施できなかった) ・保健委員は、清掃点検・各行事での美化活動・エコキャップ運動・大阪府の保健研究発表会での発表・文化祭での発表など、一年を通じて数多くの活動を行った。(○)</p> <p>(2) ・取組み後に「振り返りシート」を書かせることは徹底して行われ、記述の抜粋を生徒に還元することもしっかりと実行した。事後アンケートの理解度は 80%を超えた。(○) ・学校教育自己診断の人権教育に関する項の肯定的回答は 55%に上昇した。事前指導の強化や振り返りシート等の成果が表れたと考える。「わからない」という回答が依然として多い (20%) ので、今後生徒への意識づけをよりしっかりと行うように工夫したい。(○)</p> <p>(3) 学校教育自己診断の教育相談に関する項の肯定的回答が 52%に上昇した。生徒指導の基本として、生徒の話をきっちりと聞き取るということを徹底した成果が出たと考えられる。また、支援が必要な生徒個々のケース会議は昨年以上に充実しており、校長マネジメント予算を使い、スクールカウンセラーの来校回数を増やすなどの措置を行った。(○)</p> <p>(4) 性教育の講師を変更した関係で、確認アンケートの様式も項目別ではなく、全体の理解度を問うアンケートとなった。「よくわかった」、「だいたいわかった」を合わせて 83%であった。昨年度 5 項目平均 53%から大幅に改善した。次年度は生徒に理解させたい内容を明確化する工夫を行いたい。(○)</p> <p>(5) 保護者向け自己診断家庭連絡充実肯定感 58.0%であった。次年度は連絡体制のシステム化を図ることで、家庭連絡の充実に取り組みたい。(△)</p>
<p>4. 学区撤廃・再編整備計画等の新たな教育状況に向けた体制づくり</p>	<p>(1) 中高連携・広報活動の充実 ア. 中高連携のあり方の見直し イ. 学校説明会・オープンスクールの取り組みの発展</p> <p>(2) 再編整備に向けたプロジェクトチームの活動</p>	<p>(1) ア・中学教員対象の中高連絡会の内容を向上させ、より深い中高連携を行う。 ・中学訪問を実施することで中学の実態を知り、中高連携を深める。 イ・学校説明会・オープンスクールのプログラム・プレゼン内容等を更新し、よりわかりやすい説明を行う。 ・広報活動を工夫し、より多くの中学生や保護者の方々の参加を図る。</p> <p>(2) 再編整備プロジェクトチームを組織し、教育課程等の検討を行う。</p>	<p>(1) ア・中高連絡会の参加校 (H26 年度 32 校) を 35 校に引き上げる。 ・中高連絡会のプログラムの改善。 ・中学校訪問 3 回 イ・学校説明会の参加者数 (H26 年度 275 人) の前年度比 10%増</p>	<p>(1) ア・6 月と 10 月に中高連絡会を行い、41 校の参加を得た。内容的にも、これまでの学校説明会的なものから、生徒の指導を中心としたものに変更し、より学校の実態を知ってもらうように工夫した。中学校の先生方にはおおむね好評だった。(○) ・6 月は新入生の指導を中心とし、10 月は在校生の進路指導・入試情報として、内容に変化をつけた。(○) ・3 月・6 月・11 月の 3 回の中学校訪問を行った。訪問で得た情報は、教員全員で共有するように工夫した。(○) イ学校説明会の参加者は 305 名 (前年比 10.9%増) となり、目標の 10%を超えた。また、説明会用パワーポイントの内容改善・学校紹介ビデオの作成に取り組んだ。説明会後のアンケートでは非常に好評であった。(○) 次年度は、ホームページの刷新等も含めて、広報活動の充実を図りたい。</p>